

2026 年 6 月 1 日

丹青社、能登地域の古材を次世代へつなぐ広域ネットワーク組織
「能登アップサイクルプラットフォーム」を設立
～7 団体が協力し、能登の創造的復興をアップサイクルで加速～

商業施設・文化施設などの空間づくりをおこなう株式会社丹青社（本社：東京都港区／代表取締役社長：小林 統／以下、丹青社）は、能登半島で使われなくなった建材や建具の再活用に取り組む金丸商店株式会社（石川県能登町）など 6 つの企業・団体と共に、震災から 2 年半の節目となる 2026 年 6 月 1 日（月）に「能登アップサイクルプラットフォーム」を設立いたしました。

本組織は、半島振興法に指定される能登地域 13 市町の古材や古建具・古道具等を「アップサイクル」の視点で見直し、再活用を促進することで、震災からの創造的復興を推進するための広域ネットワーク組織です。今後は本趣旨に賛同する団体の参画を募るとともに、建築・ものづくり分野をはじめとする多様な外部パートナーとの連携を強化し、能登の歴史を次世代へつなぐ情報発信やプロダクトの共創、具体的な活用案件の創出に取り組んで参ります。



■ プラットフォーム設立の背景

令和 6 年能登半島地震では、多くの建築物が被災し、4 万棟を超える建物が公費解体の対象となりました。その中には、日本海沿岸の厳しい風雪に耐え、長年にわたり家族や地域コミュニティの暮らしを支えてきた伝統的建築物が数多く含まれています。復旧の過程でその多くが焼却処分される現状を前に、能登各地の有志によって、解体前の建物から建材や建具を救い出す「古材レスキュー」が展開され、当社も参画してきました。回収された資材は、内装材や家具へと姿を変えて地域内外で活用され、人々の暮らしの記憶を次世代へとつなぐ役割を果たしています。

リリースに関するお問い合わせ先：

株式会社 丹青社

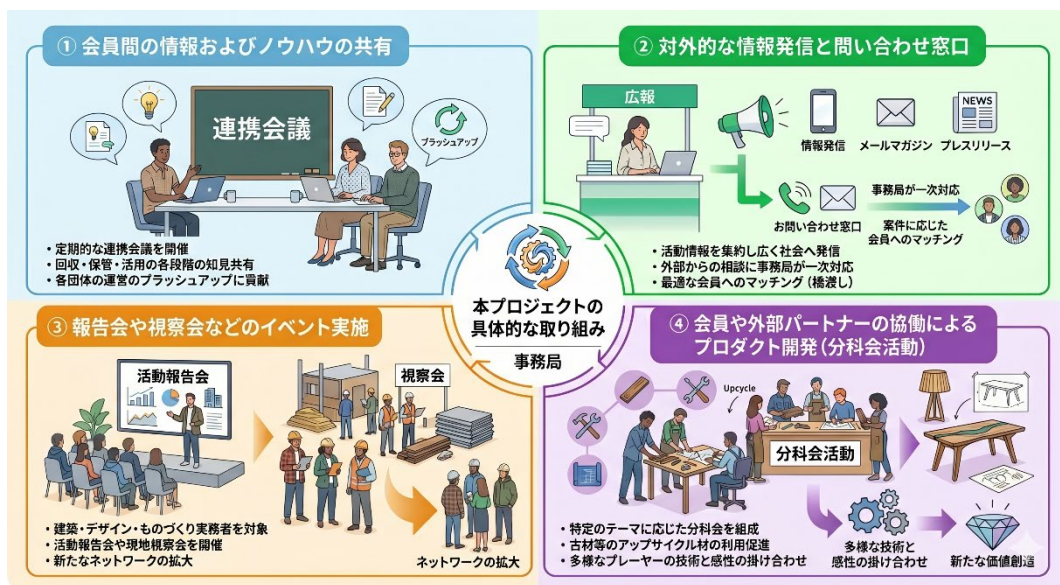
広報室 担当：石綿、寺戸

Tel：03-6455-8115 Mail：pr-staff@tanseisha.co.jp

一方で、これまでは実施団体間の連携が限定的であり、回収・保管・活用に関するノウハウは各組織に個別に蓄積されている状況でした。特に柱や梁（はり）といった、用途が限定されやすい大型材の活用法の開発、および地域や業種を越えた多様なプレーヤーとの協力体制の構築が喫緊の課題となっています。丹青社では「地域創生支援室」が中心となり、当取り組みに参画しておりましたが、公費解体が終了し、本格的なまちづくりへと移行する今、能登半島の「創造的復興」を加速させるべく、「アップサイクル」を軸とした広域連携を促進する組織として、本プラットフォームを設立いたしました。

■ 具体的な取り組み内容

本プラットフォームは、会員間での情報・ノウハウの共有にとどまらず、建築やものづくりに携わる方々をはじめとする外部パートナーに対し、一元的な情報発信と総合的な窓口機能を提供します。また、会員同士の連携によるプロダクト開発など、能登の資源を次世代へつなぐ取り組みを推進して参ります。



■ 本プロジェクトによって期待される効果

① アップサイクルを軸とした「関係人口」の創出

能登半島地域は急激な人口減少に直面しており、社会機能の維持や文化の継承において、多様な人材の関わりが不可欠となっています。そこで重要となるのが、移住でも観光でもない、地域と継続的に関わる「関係人口」の存在です。本活動を通じて生まれた縁が、多様な人の新たな関りに波及することで、住む人と訪れる人の双方が新しい刺激や学びを得られる、創造性豊かな環境が実現できます。

② 価値を再発見し、古いものを生かす文化の醸成

古材や古建具のリユースは、CO2 排出量の削減という環境面での貢献に加え、長い年月が育んだ意匠性（ビンテージ価値）を継承する取り組みでもあります。人口減少に伴い家屋や家財の整理が加速する日本において、「捨てずに活用する」という選択肢を広く提示することは、持続可能な循環型社会への第一歩となります。本プラットフォームの認知を高め、参画の輪を広げることで、古いものの価値を再評価し、大切に使い継ぐ文化の醸成を目指します。

リリースに関するお問い合わせ先：

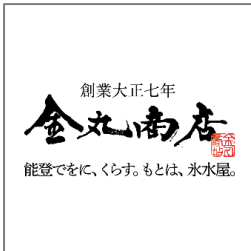
株式会社 丹青社

広報室 担当：石綿、寺戸

Tel：03-6455-8115 Mail：pr-staff@tanseisha.co.jp

■ 参画会員 ※五十音順

本プラットフォームでは、半島振興法により半島振興対策実施地域に指定されている能登地域（石川県河北郡以北の12市町及び富山県氷見市の合計13市町）に拠点をもち、能登の資源を活用したアップサイクル活動を行う企業・団体を「正会員」としています。また、正会員と連携し、能登の資源を活用したアップサイクル活動に取り組む能登地域内外の企業・団体を「パートナー会員」としています。

金丸商店株式会社（石川県鳳珠郡能登町 / 事務局）

能登町宇出津地区で大正7年ごろに祖父母が創業した商店を、孫とひ孫が令和7年に株式会社として継承し、解体業や古材レスキューなど7つの事業に挑戦中です。重ねて、仲間と共に暮らす「共暮らし」をテーマに、受け継がれてきた能登半島の財産を物語と共に受け継ぐ事業に挑戦中です。

WEB : <https://www.facebook.com/kanemaru.inc>

古材 create 青組（石川県羽咋郡志賀町）

石川県志賀町富来地区を拠点に「捨てられるモノを創造的に活用する事業」を行っています。震災後に、のと復耕ラボ、丹青社、金丸商店と協働して「のと古材レスキュー」を行ってきました。今後は古材の活用をメインとした活動に移るとともに、古材のショールームを起点に西能登地域の情報発信拠点を整備していきます。

WEB : <https://aogumi-kozai.com/>

すず建具バンク（石川県珠洲市）

珠洲市を拠点に、能登半島地震で解体されるお家から木製建具をレスキューし記録・整理・保管する「すず建具バンク」。奥能登を中心に再建される住宅 / 集会所 / 店舗などで再活用頂くことで復興へ繋げています。持ち主さんの思いと共にこの町の小さな物語を記録して手渡し、その営みの循環を再構築するプロジェクトです。

株式会社中善工務店（石川県河北郡津幡町）

石川県津幡町の山あいに行む「もくぞうこ」は、木材倉庫を再生した、ものづくりと自然を楽しむ複合施設です。古材や建具をレスキューし、新たな価値を提案するギャラリーやカフェ、県内唯一のMTBパークを併設。中善工務店が運営し、遊びや創作を通じて、これからの豊かな暮らしを共につくっていく場所です。

WEB : <https://mokuzouko.com/>

一般社団法人のと復耕ラボ（石川県輪島市）



「能登半島の里山の『暮らしを耕す』ことを通して、地域内外の人との関係を深め、持続可能で豊かな地域づくりに寄与する」ことを目指して設立された団体です。事業の一つとして、「のと古材レスキュープロジェクト」を2024年5月より実施。多くの方の協力を得て、約90軒の家屋や寺院などから古材・古道具のレスキューを行いました。

WEB：<https://notofukkolabo.net/>

氷見古材ネットワーク（富山県氷見市）



氷見古材ネットワークは、富山県氷見市で被災した家屋から再利用可能な材を取り出し、次の担い手につなげていく活動をする団体です。結び目=Knot（ノット）と能登（のと）を掛け、人や古材の結び目をつくっていく組織として名付けました。資源循環型の復興プロセスの構築を目指し、市民・事業者・学生が連携して活動しています。

WEB：<https://sites.google.com/view/knot-work>

株式会社丹青社（東京都港区 / パートナー会員 / 事務局補助）



総合ディスプレイ業として全国で商業施設・文化施設などの空間づくりを行っています。2024年5月に（一社）のと復耕ラボと「のと古材レスキュープロジェクト」を開始。事務局運営と広報面・活用面でプロジェクト推進を担当してきました。また、自社オフィスの会議スペースに能登の古材を活用したテーブルを製作し、使用しています。

丹青社オフィスでの古材活用事例（WEBメディア「場と人」）：

<https://batohito.tanseisha.co.jp/sustainability/sustainable-office-case/>

WEB：<https://www.tanseisha.co.jp/>

■ 今後の展開

アップサイクルを軸とした新たな繋がりづくりのために、広報活動や交流活動を行っていきます。

【夏の現地視察会 2026】

日程：	2026年8月22日（土）
視察先：	のと復耕ラボ古材倉庫（石川県輪島市）ほか
対象：	古材の活用に関心をお持ちの建築やものづくり関係者など
内容：	能登アップサイクルプラットフォームでは、会員が互いの実践地域を訪れる「現地視察会」を定期的に開催。視察会には会員団体関係者のほか、古材や古道具などのアップサイクルに関心をお持ちの皆さまもご参加いただけます。アップサイクルに取り組む現地メンバーと交流いただき、能登半島や古材の魅力を体感いただければ幸いです。

※詳細は決定次第、メールマガジンおよび公式WEBサイトにてお知らせいたします。

■ 団体概要

団体名：能登アップサイクルプラットフォーム

設立日：2026年6月1日（月）

事務局：石川県鳳珠郡能登町字宇出津へ29番地1（金丸商店株式会社内）

公式サイト：<https://www.noto-upcycle-platform.org/>

事業内容：能登地域におけるアップサイクル活動の知見・ノウハウの共有、地域内外へ向けた協働広報および情報発信、アップサイクルに関する問い合わせの一次対応

■ 地域創生支援室について

丹青社グループでは「地域創生支援室」を中心に、地域がかかえる課題を多面的に検証し、事業の構想初期段階から運営参画まで、地域のパートナーとして、にぎわいある地域の新しい未来のストーリーをつくっています。日本全国の地域に根付いた空間づくりで培った調査力・企画力・実現力と、丹青社グループのもつノウハウを活かして、地域の皆さまと一緒に、事業を生み出し、にぎわいをつくります。

（詳細パンフレット：https://www.tanseisha.co.jp/resource/Tanseisha_Chiiki-Sousei-Shiennshitsu_2023.pdf）

■ 丹青社について

「ここを動かす空間づくりのプロフェッショナル」として、店舗などの商業空間、博物館などの文化空間、展示会などのイベント空間等、人が行き交うさまざまな社会交流空間づくりの課題解決をおこなっています。調査・企画から、デザイン・設計、制作・施工、デジタル技術を活かした空間演出や運営まで、空間づくりのプロセスを一貫してサポートしています。

社名：株式会社丹青社

所在地：〒108-8220 東京都港区港南 1-2-70
品川シーズンテラス 19F（本社）

創業：1946年10月

資本金：40億2,675万657円（2026年1月31日現在）

上場：東京証券取引所プライム市場
（証券コード：9743／業種名：サービス業）

URL：<https://www.tanseisha.co.jp>



・本リリースに関するお問い合わせ先

株式会社丹青社 広報室 担当:石綿、寺戸 Mail: pr-staff@tanseisha.co.jp Tel: 03-6455-8115

お問い合わせフォーム：<https://www.tanseisha.co.jp/contact/pr>

※掲載された内容は発表日現在のものです。

その後予告なしに変更されることがありますので、あらかじめご了承ください。